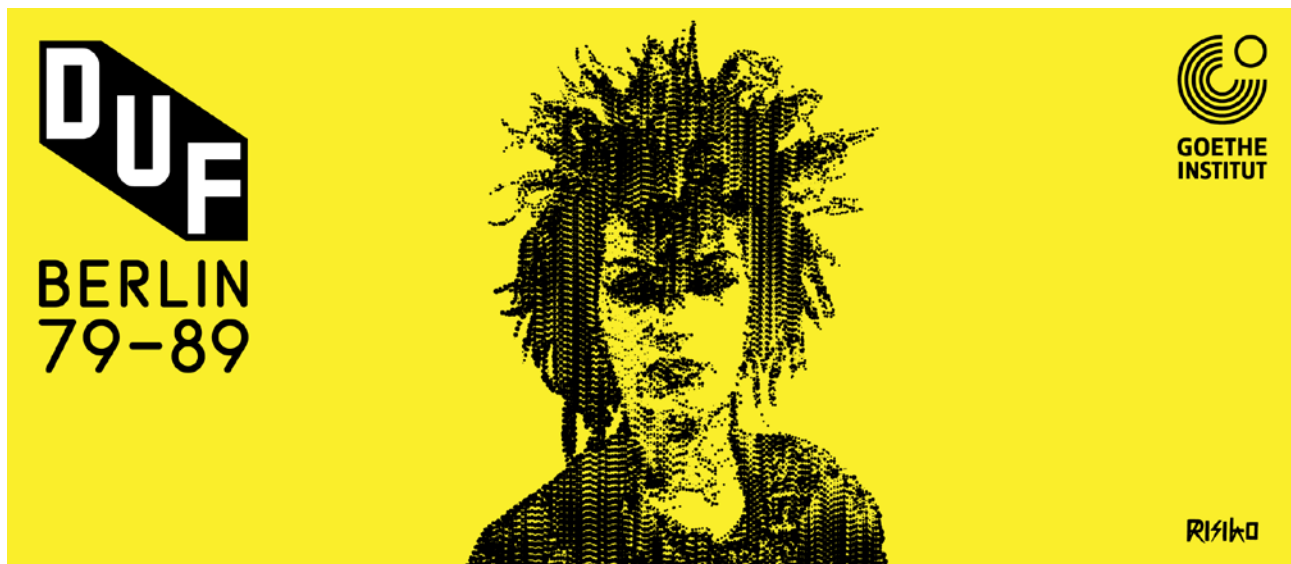




Flyer by Hiroshi Iguchi

映画プロジェクト「DUF-BERLIN 79-89」を11月に東阪で開催！

ただのノスタルジーじゃ終わらない。
これが、80年代ベルリン・アンダーグラウンドの衝動。

ベルリン拠点のインディペンデントマガジン『RISIKO』が手掛ける映画プロジェクト
「DUF（ドゥフ＝Deutsche Underground-Filme）」がスタート！

東京では赤坂の『ゲーテ・インスティトゥート東京』協力のもと、同会場にて4日間開催。
大阪では九条の『シネ・ヌーヴォ』にて、クラウス・メック監督作品を中心に、2日間の自主上映を展開していきます。

記念すべき第1回目のテーマは「1979～1989年のベルリン・アンダーグラウンド」。

パンク、インダストリアル、実験的アート、フェミニズム、クィア、DIY——。

東西分断下のベルリンで、自由と表現を追い求めた若者たちの爆発的なエネルギーが詰まった衝撃の映像作品を、
スクリーンで一挙上映します。

イベントに合わせて、ドイツ人映画プロデューサー・音楽出版者のクラウス・メックも来日。

東京では映画の上映にとどまらず、上映後のトークイベント、関連する展示やポップアップも同時展開します。

ベルリンからドイツのアンダーグラウンドシーンを紹介し続ける『RISIKO』だからこそ実現できる、
80年代ベルリンのカルチャーと熱量を多面的に体感できる、この機会をぜひお見逃しなく！

<https://www.youtube.com/watch?v=lsj8veXZZCY>

■ DUF-BERLIN 79-89

会期：2026年11月4日(水)～11月7日(土)
会場：ゲーテ・インスティトゥート東京
住所：〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-56
イベントページ：<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/kul/eui/deutsch-underground-filme.html>
チケット予約：<https://duf-berlin-tokyo.peatix.com>
協力：ゲーテ・インスティトゥート東京

■ DUF-BERLIN 79-89 in OSAKA

会期：2026年11月14日(土)～11月15日(日)
会場：シネ・ヌーヴォ
住所：〒550-0027 大阪市西区九条1-20-24
リンク：<https://www.cinenouveau.com>
チケット販売：ご鑑賞の7日前の朝10時よりインターネット、劇場窓口で販売スタート

DUF（ドゥフ）とは？

「Deutsche Underground-Filme（ドイツのアンダーグラウンド映画）」の略称。
普段はなかなか観る機会がないけれど、わたしたちの固定観念を打ち破り、新しい視点や考えるきっかけを与えてくれる貴重なドイツのアンダーグラウンド映画たち。
人生をちょっと豊かに、そして刺激的にしてくれる作品群を『RISIKO』が厳選し、スクリーンで一緒に鑑賞・体験する映画イベントを展開していきます。

上映作品

『B-Movie: Lust & Sound in West-Berlin 1979-1989』 2015年／92分／ドイツ 東京

監督：ヨルグ・A・ホッペ、クラウス・メック、ハイコ・ランゲ

出演：マーク・リーダー、グドゥルン・グート、ブリクサ・バーゲルト、ニック・ケイヴ、ディー・テートリッヒエ・ドーリス、マリウス・ウェーバー、ネーナ、ディー・エルツテほか

予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=VIU18hGrurl&t=2s>



Photo by DEF Media

<あらすじ>

1978年、マンチェスター出身の音楽オタク、マーク・リーダーは冷戦下の西ベルリンへ。そこはアーティスト、不法占拠者、パンクスたちが集まる無法地帯だった。パンクからニュー・ウェイヴ、テクノ文化の黎明まで。リスクを恐れない若者たちの狂気と熱気に満ちた、壁崩壊までの10年間をマークの視点で駆け抜ける。

<見どころ>

時代の境界線で爆発した、ベルリン・サブカル史の貴重なリアル・ドキュメント。主演のマーク・リーダーをはじめ、アーティストたちの証言や大量の未公開8mm映像を元に制作。鮮烈な音と映像のカラーージュは、圧倒的なリアリティで80年代の空気感を再現した。当事者から現代の若者まで、世界中でアツい支持を集めている。

『カミング・アウト』 1989年／113分／ドイツ 東京

監督：ハイナー・カーロウ

出演：マティアス・フライホーフ、ダグマー・マンツェル、ディルク・クマー、ミヒャエル・グヴィスデック、ヴェルナー・ディッセルほか

予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=bsHUZvI8f-k&t=3s>



Photo by DEFA-Stiftung/Wolfgang Fritsche

<あらすじ>

東ベルリンの高校教師フィリップは、同僚タニヤと同棲していたが、彼には隠された秘密があった。昔の恋人との再会、ゲイバーで出会った青年マティアスとの恋をきっかけに、封印していた本来の感情があふれ出す。偽りの自分を捨ててありのままの姿で生きるために、フィリップは「カミング・アウト」の決断を迫られる。

<見どころ>

旧東ドイツ国営映画スタジオDEFAが同性愛を描いた唯一の映画。ベルリンの壁が崩壊した1989年11月9日に初上映され、第40回ベルリン国際映画祭では銀熊賞と泰迪賞をW受賞。同性愛が反社会的行為だった東ベルリンを舞台に、実在のゲイバーや人物も登場し、抑圧の中で生きる人々のリアルな姿が記録されている。

『ソロシンガー』 1980年／104分／ドイツ 東京

監督：コンラート・ヴォルフ

出演：レナーテ・クレスナー、アレクサンダー・ラング、ハイデ・キップ、ディーター・モンタークほか

予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=S7kU-p-0sWI>



Photo by DEFA-Stiftung/Dieter Lück

<あらすじ>

1970年代末の東ベルリン。25歳のサニーはソロ歌手を夢見て、地元バンドとドサ回りツアーを続ける日々。恋や仕事、男性社会の壁にぶつかりながらも、友人に支えられ、自分らしく生きるために奮闘する。自立したい、認められたい、愛されたい。若者の誰もが抱く葛藤と成長を、不器用でまっすぐなサニーの姿を通して描く。

<見どころ>

東ドイツの名匠コンラート・ヴォルフ監督の最後の劇映画作品。公開当時は観客動員数約130万人を記録し、主題歌も大ヒットした。主演レナーテ・クレスナーは若者のアイコンとしても人気を博し、第30回ベルリン国際映画祭では東ドイツ女優初の最優秀女優賞を受賞。東独ならではのインテリアやファッションにも注目。

『ディー・テートリッヒェ・ドーリスの実験映像集』 1980年代／29分／ドイツ 東京 大阪

監督：ディー・テートリッヒェ・ドーリス

セレクト&編集：RISIKO

出演：ヴォルフガング・ミュラー、ニコラウス・ウーターメーレン、ケーテ・クルーゼ、タベア・ブルーメンシャイン

予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=z taNwy5kMA>



Photo by Die Tödliche Doris,
Naturkatastrophenballett, Videostill, Beitrag für den
WDR-Rockpalast, Berlin 1983

<あらすじ>

80年代西ベルリンの自由なアヴァンギャルド精神が生み出した総合パフォーマンス集団、ディー・テートリッヒェ・ドーリス。メンバーのケーテ・クルーゼの解説を元に、彼らの映像作品を『RISIKO』がDUFのために特別編集。カオスでナンセンス、そしてどこか滑稽なパフォーマンスにどっぷり浸れる実験映像集。

<見どころ>

斬新な口パクライブ、自然災害をモチーフにしたシュールな音と身体表現など。金銭や見返りに囚われず、ただ独自の表現を貪欲に追求した「致死量ドーリス」たちが放つ、自由で危険なアートのパワーを存分に楽しめる。ウルリケ・オットィンガー監督の映画『アル中女の肖像』で知られるタベア・ブルーメンシャインも登場。

『アインシュテュルツェンデ・ノイバウテン：リーベスリーダー』 1993年／100分／ドイツ 東京 大阪

監督：クラウス・メック、ヨハナ・シェンケル

出演：ブリクサ・バーゲルト、N・U・ウンルー、F・M・アインハイト、マーク・チャン、アレキサンダー・ハッケ

予告編：<https://www.youtube.com/watch?v=gQ2oFhxYL1Q>

* 東京は英語字幕での上映



Photo by Fritz Brinckmann

<あらすじ>

80年代の西ベルリンで結成された前衛バンド、アインシュテュルツェンデ・ノイバウテンの結成から最盛期を追ったドキュメンタリー。インタビューや過激なライブ映像、MVを通じ、破壊的なノイズから独自の美学へと至る進化を記録。「破壊と再構築」を音で体現する彼らの軌跡と冷戦下のアングラ文化を立体的に描き出す。

<見どころ>

後にマネージャーとなるクラウス・メック監督が捉えた貴重な記録。「崩壊する新建築」というバンド名にふさわしく、ドリルや金属廃材を楽器に変えてしまう実験的なライブパフォーマンスは必見だ。ブリクサ・バーゲルトが放つ圧倒的なカリスマ性、ノイズと詩的美学が融合する唯一無二の音響空間を臨場感たっぷりに体感できる。

『デコーダー』 1984年／89分／ドイツ 大阪

監督：ムシャ

出演：F・M・アインハイト、ビル・ライス、クリスティアーネ・F、ウィリアム・S・バロウズ、ジェネシス・P・オリッジほか



Photo by Interzone Pictures

<あらすじ>

ハンバーガーチェーンの店内に流れるBGMが、人々の思考や消費行動を洗脳・支配していることに気づいたF・M。彼は不快なインダストリアルノイズでBGMを上書きし、人々を覚醒させようと音響テロを企てる。刑事のイエーガーは、F・Mの彼女でカエル好きの風俗嬢クリスティアーネに惹かれながらも、F・Mを追う。

<見どころ>

ウィリアム・S・バロウズの理論にインスパイアされた、アングラ界のスターが集う異色作。ノイズ愛好家の主人公を演じるF・M・アインハイトをはじめ、ジェネシス・P・オリッジやバロウズ本人も出演。インダストリアルノイズとシュールな映像が融合し、管理社会の洗脳に抗う姿を現実と虚構の狭間で描く予言的サイバーパンク映画。

『ウィリアム・S・バロウズ 路上の司祭』 1991年／55分／ドイツ 大阪

監督：クラウス・メック

出演：ウィリアム・S・バロウズ、ユルゲン・ブロークほか



Photo by Interzone Pictures

<あらすじ>

ビート・ジェネレーションを代表する鬼才作家ウィリアム・S・バロウズの大ファンである、クラウス・メック監督が制作したドキュメンタリー。独占インタビューを中心に、彼の作品朗読、自身が出演した映画『デコーダー』などの映像を交え、アメリカ文化や道徳、芸術についての独自の哲学と異色の人生模様を描き出す。

<見どころ>

バロウズ本人が語る皮肉とユーモアに満ちた鋭い世界観と、唯一無二の低音ボイスによる迫力ある朗読。アーカイブ映像や絵画などの多様なフッテージをコラージュのようにつなぎ合わせた構成で、彼の狂気と知性を映像体験できる。1986年に西ベルリンの映画館『Filmkunst 66』で行われた、伝説的なリーディングシーンも必見。

『アル中女の肖像』 1979年／108分／ドイツ 大阪

監督：ウルリケ・オットィンガー

出演：タベア・ブルーメンシャイン、ルッツェ、マグダレーナ・モンテツマ、ニナ・ハーゲン、クルト・ラープ、フォルカー・シュペングラー、エディ・コンスタンティーヌ、ヴォルフ・フォステル、マーティン・キッペンバーガーほか



Bildnis einer Trinkerin,
Photo: Ulrike Ottinger © Ulrike Ottinger

<あらすじ>

片道切符で西ベルリンに降り立った美しい女性。彼女の目的は、過去を忘れ、ひたすら酒を飲むことだった。街のあらゆる場所で優雅かつ破滅的にアル中の旅を続け、同じく酒を愛する仲間たちと出会いながら、逃れられない酩酊の日々を紡いでいく。

<見どころ>

飲むために生き、飲みながら生きる、酒飲みの人生。西ベルリンのアート、ファッションシーンのアイコン的存在であったタベア・ブルーメンシャインの爆発する魅力。R・W・ファスピンダーが「最も美しいドイツ映画」の一本として選出し、リチャード・リンクレーターが最愛の作品とした一本。ジャーマン・バンクの母、ニナ・ハーゲンも出演している。

トークイベント（東京のみ）

作品の余韻をリアルな言葉で紐解く、上映後のトークイベントを開催！

『B-Movie: Lust & Sound in West-Berlin 1979-1989』アフタートーク

ゲストに迎えるのは、本作のプロデューサー兼監督、アインシュテュルツェンデ・ノイバウテンのマネージャーを務めたクラウス・メックと、この夏にDYGLのツアーでベルリン公演を行ったばかりのミュージシャン秋山信樹。

80年代東西分断下のベルリンで爆発したDIY精神とアンダーグラウンド・カルチャー。その熱量は現代の表現者や音楽シーンにどう影響を与えるのか？当事者と現代のカルチャーを紡ぐ二人が、時代を超えたアティチュードについて語り合います。

●テーマ●

80年代ベルリンと現代のアンダーグラウンド

●ゲスト●

クラウス・メック（映画プロデューサー・音楽出版者）

秋山 信樹（DYGL・Deadbeat Painters・Acid Western）

司会・進行：山根 裕紀子（RISIKO編集長）

日時：2026年11月4日(水) 20:15

会場：ゲーテ・インスティトゥート東京

『ディー・テートリッヒェ・ドーリスの実験映像集』アフタートーク

ゲストは、ディー・テートリッヒェ・ドーリスのメンバーであり、現在も多角的な表現を続けるビジュアルアーティストのケーテ・クルーゼ。RISIKO編集長の山根裕紀子が対談相手として登壇。

一筋縄ではいかないディー・テートリッヒェ・ドーリスの表現と世界観。ケーテによる作品解説に加え、80年代当時のベルリン・アンダーグラウンド・シーンで活躍した女性アーティストたちについて深く掘り下げます。

●テーマ●

作品解説&80年代ベルリンの女性アーティスト

●ゲスト●

Käthe Kruse（ビジュアルアーティスト）＊オンライン出演

聞き手・進行：山根 裕紀子（RISIKO編集長）

日時：2026年11月7日(土) 15:40

会場：ゲーテ・インスティトゥート東京

『アインシュテュルツェンデ・ノイパウテン：リーベスリーダー』アフタートーク

ゲストには、本作の監督であり元マネージャーのクラウス・メック、そして映画『半分人間』で彼らを捉えた石井岳龍監督が登場。

80年代、日独それぞれの現場で「破壊と創造」に向き合ってきた二人。アインシュテュルツェンデ・ノイパウテンという存在が放った圧倒的なエネルギーと表現の裏側に迫るとともに、映画監督として互いに共鳴した衝動を解き明かします。

●テーマ●

80年代のアインシュテュルツェンデ・ノイパウテン

●ゲスト●

クラウス・メック（映画プロデューサー・音楽出版者）

石井 岳龍（映画監督）

司会・進行：山根 裕紀子（RISIKO編集長）

日時：2026年11月7日(土) 19:45

会場：ゲーテ・インスティトゥート東京

プレスお問合せ

RISIKO編集長・山根裕紀子

risikomagazine@gmail.com

ゲーテ・インスティトゥート東京

presse-tokyo@goethe.de

RISIKO magazine

ドイツのアンダーグラウンド／オルタナティブな音楽やカルチャーの「今」を紹介する
ベルリン拠点のインディペンデントマガジン。

[Instagram](#) | [Facebook](#) | [X](#) | [YouTube](#)

ゲーテ・インスティトゥートは、グローバルに活動するドイツ連邦共和国の文化機関です。海外におけるドイツ語教育の推進、国際的な文化協力の振興、ドイツの総合的なイメージの発信に努めています。70年にわたりドイツ語とドイツ文化へのアクセスを提供し、所在国の市民社会とのパートナーシップを通じた対話の実現に尽力することで、ドイツに対する持続的な信頼を築いています。ゲーテ・インスティトゥートは連邦外務省の制度的な支援を受けつつ、いかなる政党にも属さずに法的にも独立しています。自らの責任において活動し、予算の約3分の1を語学講座や検定試験の収益でまかなっています。現在100カ国に154カ所の拠点をもち、ドイツにはそのうち12カ所のゲーテ・インスティトゥートがあります。

ゲーテ・インスティトゥート東京

HP: <https://www.goethe.de/ins/jp/ja/index.html>

Instagram: <https://www.instagram.com/goethe.institut.tokyo>

Facebook: <https://www.facebook.com/goethe.institut.tokyo>

RISIKO

